

講義概要

SYLLABUS

令和7年度

3年生

歯科衛生学科

神戸リハビリテーション衛生専門学校

KOBE COLLEGE OF REHABILITATION AND HEALTH

科目名 社会福祉

講師 松原 宏樹 地域包括支援センター(センター長)や居宅介護支援事業所(主任介護支援専門員)での勤務経験があるとともに、認知症介護指導者として大阪市、兵庫県、神戸市などで介護指導や講師活動を行っています。また、専門は家族ケア、ケアマネジメント、認知症ケアです。

学年・期 3年生前期、2単位、30時間(講義)

講義目標 医療従事者は、日々の業務をとおして、さまざまな患者(利用者)やその家族の方々と接します。その当事者のなかには、個別の生活課題を抱えている場合も多く存在するため、障害者、子ども、高齢者、低所得者等についての法律や制度、諸活動(サービス)を知ることが求められます。また、近年では社会福祉の専門職(社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士など)とのチームアプローチが欠かせなくなっています。そのため社会福祉の全般について学ぶことは大きな意義があります。

授業計画	内容
第1回	【障害者福祉】「障害」について理解を深めます。今回のキーワードは「障壁(バリア)」です。学習効果を高めるために、まずは福祉体験(車いす、アイマスク)をします。次に校外演習のオリエンテーションをした後、実際に地域に出てフィールドワークを行います。
第2回	
第3回	【障害者福祉】今回のキーワードは「障害の社会モデル」「合理的配慮」「障害者権利条約」「障害者虐待防止法」です。前回までの学習内容についてICFのモデル(統合モデル)を使ってさらに理解を深めていきます。障害者福祉(条約・法律)の歴史をひもときます。障害者差別解消法をとおして合理的配慮について考えます。その後、虐待を防止することによって障害者の権利及び利益を擁護することの重要性について学習します。
第4回	
第5回	【子ども福祉】「子ども」について理解を深めます。今回のキーワードは「児童観・児童憲章」「子どもの権利条約」「社会的養護」「児童虐待防止法」です。子どもの人権について考えます。児童福祉制度の沿革をひもときながら、さらに理解を深めていきます。社会的養護の社会的な役割と重要性について学習します。その後、虐待を防止することによって子どもの権利及び利益を擁護することの重要性について学習します。
第6回	
第7回	【子ども家庭福祉】「(子ども取り巻く)家庭」について理解を深めます。今回のキーワードは「少子化」「固定的な性別役割・アンコンシャス・バイアス」「子ども基本法」です。人口の推移や人口構造の変化にともなう社会的な変化について考えます。子ども・子育てに関する法律の沿革をひもときながら、さらに理解を深めていきます。
第8回	【低所得者福祉】「貧困」について理解を深めます。今回のキーワードは「子どもの貧困」「貧困の世代間連鎖」「貧困の概念(絶対的貧困・相対的貧困)」「セーフティネット・生活保護制度」「貧困問題の諸活動(COS,セツルメント運動など)」です。戦後の日本まで振り返り、子どもの貧困について考えます。わが国の公的扶助制度のあゆみをひもときながら理解を深めていきます。その後、貧困問題に対するとらえ方と諸活動について、世界的な活動を取り上げ学習します。
第9回	
第10回	【高齢者福祉】「認知症」について理解を深めます。今回のキーワードは「権利擁護」「共生・予防」「QOL」「パーソン・センタード・ケア」「意思決定支援」「高齢者虐待防止」「地域包括ケア(システム)」「共生社会」「家族介護者支援(介護離職の防止を含む)」です。認知症ケアの理念と我が国の認知症施策の歴史の変遷をひもときながら、権利擁護について理解を深めていきます。認知症施策推進大綱を学習し、現在に行われている経済産業省や厚生労働省が中心となって取り組んでいる活動などについても理解する。その後、高齢者を取り巻く社会づくりの重要性について、地域包括ケア(システム)や共生社会という考え方を知り、これからの日本社会で求められている「地域社会とはなにか」を考えます。
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	【社会福祉の歴史】「社会福祉」について理解を深めます。今回のキーワードは「社会福祉の発展」「介護保険制度」です。戦後からの社会福祉のあゆみをひもときながら、社会福祉の活動について理解を深めていきます。措置制度から介護保険制度への移行、現在の介護保険制度の概要を学習し、どのような社会資源があるのかを知る。【社会福祉概論の総復習】今まで学習した内容について、要点を中心に振り返ります。
第15回	

履修上の注意 特になし

成績評価 定期試験のみ 単位認定者：松原

テキスト 講談社サイエンティフィック コメディカルのための社会福祉概論 第5版

参考図書 特になし
その他

科目名 歯科予防処置論Ⅳ

講師	久保田千尋 木村こずえ 東 忍 外部講師	歯科衛生士として歯科医院で働く。また歯科衛生士教員として、歯科衛生士（教育）認定（全国歯科衛生士教育協議会）を取得、主要3科目を教授してきた。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する。（久保田） 歯科衛生士として臨床に従事。歯科医院で働き、新人教育にも携わる。これまでの経験を活かし講義する。（木村） 歯科衛生士として歯科医院、訪問歯科にて働く。これまでの経験を活かし講義・演習を行う。（東）
----	-------------------------------	--

学年・期 3年生前期。1単位。30時間（講義・演習）

講義目標 1. 2学年で学び修得した知識・技術と、他教科で修得した内容がリンクし口腔内を診査した時点での確かな判断と、確実な技術がリンクし、口腔内を診査した時点での確かな判断と確実な技術で相互実習を行う。また、歯科衛生ケアプロセスを知り、理解を深めると共に自分自身の知識も深める。

授業計画	内容
第1回	総復習
第2回	
第3回	予防歯科について 臨床で役立つ予防製品の知識と体験（企業）
第4回	
第5回	シャープニングについて 講義・演習（企業）
第6回	
第7回	総括実習①（相互実習 口腔内観察・歯面研磨・スケーリング他）
第8回	
第9回	総括実習②（相互実習 口腔内観察・歯面研磨・スケーリング他）
第10回	
第11回	歯科衛生ケアプロセス 歯周治療における歯科衛生士介入の意義
第12回	
第13回	症例検討 歯周治療における症例
第14回	
第15回	総まとめ

履修上の注意 レポート及び課題の提出期日は厳守とする。 体調管理を整え授業に取り組んでください。
積極的な取り組みを期待します。

成績評価 レポート、提出物、授業態度ならびに成果によって評価する 単位認定者：久保田・木村・東

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論

参考図書 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学
その他

科目名 う蝕予防処置論Ⅱ

講師 久保田 千尋 歯科衛生士として歯科医院で働く。また歯科衛生士教員として、歯科衛生士（教育）認定（全国歯科衛生士教育協議会）を取得、主要3科目を教授してきた。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する。（久保田）
木村 こずえ 歯科衛生士として臨床に従事。歯科医院で働き、新人教育にも携わる。これまでの経験を活かし講義する。（木村）
東 忍 歯科衛生士として歯科医院、訪問歯科にて働く。これまでの経験を活かし講義・演習を行う。（東）

学年・期 3年生前期。1単位。30時間（講義・演習）

講義目標 う蝕予防プログラムを作成し、う蝕予防処置を臨床現場で実施するために必要な患者への説明、コミュニケーション術を学ぶ。また、う蝕予防処置を地域歯科保健の現場で正しく行うための計画、実施方法について学び、その手技を習得する。

授業計画	内容
第1回	フッ化物局所応用① 相互実習
第2回	
第3回	フッ化物局所応用② 相互実習
第4回	
第5回	集団におけるう蝕予防処置法・集団フッ化物歯面塗布法（講義・実習）
第6回	
第7回	齲蝕予防プログラムについて
第8回	
第9回	齲蝕予防プログラム作成
第10回	
第11回	診療現場におけるう蝕予防処置（リーフレット作成）
第12回	
第13回	臨地実習オリエンテーション（保育園実習）
第14回	
第15回	まとめ

履修上の注意 レポート及び課題の提出期日は厳守とする。 体調管理を整え授業に取り組んでください。
積極的な取り組みを期待します。

成績評価 レポート、提出物、授業態度ならびに成果によって評価する 単位認定者：久保田・木村・東

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論

参考図書 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みⅠ 保健生態学
その他

科目名 歯科保健指導論Ⅳ

講師 久保田千尋 歯科衛生士として歯科医院で働く。また歯科衛生士教員として、歯科衛生士（教育）認定（全国歯科衛生士教育協議会）を取得、主要3科目を教授してきた。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する。（久保田）
 木村こずえ 歯科衛生士として臨床に従事。歯科医院で働き、新人教育にも携わる。これまでの経験を活かし講義する。（木村）
 東 忍 歯科衛生士として歯科医院、訪問歯科にて働く。これまでの経験を活かし講義・演習を行う。（東）
 外部講師

学年・期 3年生前期、1単位、30時間（講義・演習）

講義目標 歯科保健指導は、自ら考え問題解決に導き、生活行動を歯科保健行動へと行動変容を促し、維持するための支援・援助である。これまで学習したことを活かし、対象者のニーズに応じた歯科保健指導が行えるよう、対象把握の方法を学び歯・口腔の健康の担い手として、総合的な健康への適切な支援を考えることができる。

授業計画	内容
第1回	歯磨剤の応用 歯磨剤の科学（企業）
第2回	歯科健康教育① （保育園実習における媒体作成・練習）
第3回	歯周予防とその指導について（企業）
第4回	
第5回	歯科健康教育② （保育園実習における媒体作成・練習）
第6回	
第7回	歯科健康教育③ （歯科医院併設保育園と歯科との関わり 見学）
第8回	
第9回	スクリーニングテスト・業務記録表記入スクリーニングテスト実習・業務記録表記入 口腔アセスメント R S S T オーラルディアドコキネシス 頬のふくらまし（演習）
第10回	
第11回	歯科保健指導 要介護高齢者のADL BDR指標
第12回	口腔機能低下症 オーラルフレイル
第13回	歯科健康教育④ （保育園・高齢者施設 媒体発表）
第14回	
第15回	大規模災害被災者・まとめ

履修上の注意 授業後レポート及び課題の提出期日は厳守とする。授業資料はファイリングをする。
 体調管理に努めて授業への積極的な取り組みを期待します。

成績評価 レポート、提出物、授業態度ならびに成果によって評価する 単位認定者：久保田・木村・東

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論

参考図書 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みⅠ 保健生態学
 その他

科目名 歯科診療補助論Ⅳ

講師 久保田 千尋 歯科衛生士として歯科医院で働く。また歯科衛生士教員として、歯科衛生士（教育）認定（全国歯科衛生士教育協議会）を取得、主要3科目を教授してきた。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する。（久保田）
木村 こずえ 歯科衛生士として臨床に従事。歯科医院で働き、新人教育にも携わる。これまでの経験を活かし講義する。（木村）
東 忍 歯科衛生士として歯科医院、訪問歯科にて働く。これまでの経験を活かし講義・演習を行う。（東）

学年・期 3年生前期。1単位。30時間（講義・演習）

講義目標 歯科診療を安全かつ円滑に行うため、歯科診療チームの一員としての役割を学ぶ。また。歯科訪問診療、周術期、口腔機能管理について歯科衛生士の役割について学ぶ。

授業計画	内容
第1回	歯科機器・材料の取扱いについて①（パノラマ撮影／デンタル撮影位置づけ）
第2回	
第3回	歯科機器・材料の取扱いについて②（滅菌グローブ・口腔外科器機取り扱いについて）
第4回	
第5回	歯科訪問診療における対応①
第6回	
第7回	歯科訪問診療における対応②
第8回	
第9回	周術期における歯科診療の補助
第10回	
第11回	口腔機能管理① 口腔健康管理の意義と目的 口腔機能の種類について 嚥下機能検査
第12回	
第13回	口腔機能管理② ライフステージに対応した指導 配慮を要する患者への指導
第14回	
第15回	総まとめ

履修上の注意 レポート及び課題の提出期日は厳守とする。 体調管理を整え授業に取り組んでください。積極的な取り組みを期待します。

成績評価 レポート、提出物、授業態度ならびに成果によって評価する 単位認定者：久保田・木村・東

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論
クインテッセンス出版 おしごとハンドブック

参考図書 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科材料
その他 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科機器

科目名	臨床実習Ⅱ
講師	各施設実習指導者
学年・期	3年生通年、12単位、540時間
実習目標	医療に携わる者としての自覚を持ち、2年次の臨床実習で習得したことを活かし歯科衛生士の業務を臨床現場で実践するために必要な知識・技術・態度を身につける。また、病院や施設実習の場を通し多職種との連携の必要性を学ぶ。
実習計画	
実習目的	臨床の現場において歯科診療の流れ、歯科衛生士の業務について習得する。
<p>診療所では歯科医師を中心にチームワークの中で、患者さまとの信頼関係を築き、診療活動を行っている。その現場でチームの一員としてマナー・規則を守り、学校で学んだ基礎知識・技術に基づき、臨床実習を通じて歯科衛生士としての知識・技術・品格の向上と、臨床現場で通用する実践力、応用力、患者対応力を身につける。</p>	
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・治療の流れを説明できる。 ・診療に必要な器械・器具・材料の名称・用途が説明できる。 ・診療に必要な器械・器具・材料の準備ができる。 ・清潔・不潔を区別し、スタンダードプリコーションを実践できる。 ・手指衛生を実践できる。 ・器具の性質に応じた消毒・滅菌方法を述べる。 ・患者の安全に配慮できる。 ・臨床の場における歯科衛生士の役割を理解する。 ・対象に応じた患者対応ができる。 ・患者の情報を収集・分析し、指導計画立案、実施、評価する能力を身につける。 ・患者が自らの問題を把握し、解決できるよう援助する能力を身につける。 ・歯科衛生士業務を実践するために必要な知識・技術を身につける。 ・保健医療を担う専門職としての基本的知識を身につける。 ・対人コミュニケーション能力を身につける。 ・自己を客観的に評価し、自ら向上する態度を身につける。 ・総合病院歯科での歯科衛生士の役割を知る。(病院実習) <ul style="list-style-type: none"> ① 有病者患者への対応を知る。 ② 身体が不自由な患者への対応を知る。 ③ バイタルサインの確認方法を学ぶ。 ④ 他職種とのかかわりを学ぶ。(チーム医療とは何か。) ⑤ その他(病棟における口腔のケアなど)
履修上の注意	常に社会人としての姿勢を忘れずに責任をもって行動すること。実習指導者や患者様への言葉づかいに注意し、服装や容姿にも気を配り、しっかりと挨拶ができ、好感のもてる態度で臨むこと。積極的な態度で臨み、実習指導者の指導を受けながら教科書や参考図書を用いて臨床での疑問をできるだけ早い時期に解決できるように心がけること。臨床実習終了後、実習報告会を実施する。
成績評価	実習評価表に基づき、出席状況、情意面・知識面・技術面、およびレポート等の提出状況について実習指導者と本校教員が判定する。
テキスト	
参考図書 その他	臨床実習要項

科目名 摂食嚥下リハビリテーションⅡ

講師 楠本 雄生 大学病院での外科系の研究、臨床を経てから、現在は摂食嚥下リハビリテーションを含む在宅医療を中心に診療を行なっている。その臨床的視点から講義・実習を行う。

学年・期 3年生前期、2単位、30時間（講義）

講義目標 摂食嚥下リハビリテーションに関わる基礎から、臨床での対応について理解する。

授業計画	内容
第1回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 総論Ⅰ
第2回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 各論Ⅰ（摂食嚥下とは）
第3回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 各論Ⅱ（摂食嚥下障害）
第4回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 各論Ⅲ（チーム医療）
第5回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 各論Ⅳ（摂食嚥下に関わる解剖と生理①）
第6回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 各論Ⅴ（摂食嚥下に関わる解剖と生理②）
第7回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 各論Ⅵ（咀嚼と栄養管理①）
第8回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 各論Ⅶ（咀嚼と栄養管理②）
第9回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 各論Ⅷ（摂食嚥下障害の原因）
第10回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 各論Ⅸ（衛生士による摂食嚥下の評価）
第11回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 各論Ⅹ（口腔衛生管理）
第12回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 各論Ⅺ（摂食嚥下訓練①）
第13回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 各論Ⅻ（摂食嚥下訓練②）
第14回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ 各論Ⅼ（まとめ）
第15回	摂食嚥下リハビリテーションⅡ（VE実習）

履修上の注意

成績評価 小テスト・定期試験 単位認定者：楠本

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版

参考図書
その他

科目名 隣接医学

講師	溝部 潤子 高木 京子 片山 賀波子 小森 麻貴子	西出 順子 小坂 素子	※外部講師によりオムニバス形式 溝部は歯科衛生士で臨床・大学教育に関わり、片山・小森は看護師で臨床の傍ら看護師の教育経験をもつ。西出・小坂は、看護師の臨床・大学教育に関わり、特に西出は歯科衛生士の教育にも関わった。高木は臨床検査技師・また本校の非常勤講師として教育に関わっている。それぞれ専門分野で活躍している人材である。
----	------------------------------------	----------------	---

学年・期 3年生前期、2単位、30時間（講義）

講義目標 本科目を学ぶ意義は2つある。ひとつは、本科目で取り上げる疾患が歯科疾患に直接あるいは間接的に関わるため、特徴やその治療について知る。ふたつは、チーム医療で連携する看護師が患者の健康回復維持に関わっていく際の視点を知ることである。さらに、医療がいのちに関わる場であることについて今の自分の考えと対峙し、歯科衛生士の視点を育むことを目標とする。

授業計画	内容
第1回	隣接医学を学ぶ意義
第2回	検査データから読み取れること
第3回	看護が目指すこと（仮）
第4回	代謝内分泌疾患・免疫・膠原病
第5回	緩和ケア（1）
第6回	緩和ケア（2）
第7回	消化器疾患・循環器疾患
第8回	呼吸器疾患・腎・泌尿器疾患
第9回	感染症・血液疾患
第10回	精神疾患・神経疾患（1）
第11回	精神疾患（2）うつ病・統合失調症
第12回	検査データを活用した健康管理
第13回	母子（1）
第14回	母子（2）沐浴実習
第15回	チーム医療と歯科衛生士 グループワーク

履修上の注意 オムニバス形式で行われるため、できるだけ欠席しないように心がけてください。

成績評価 授業態度（出席率）・レポート・定期試験 単位認定者：溝部

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック

参考図書 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論
 その他 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 臨床検査
 配布資料 確認プリント

科目名 College Hour (総合学習) III

講師 久保田 千尋
外部講師

学年・期 3年生通年, 3単位, 90時間 (講義・演習)

講義目標 歯科衛生士としての総合的な学力を育成することを目的とする。各テーマに添って授業を展開し学習目標の到達を目指す。社会人としての素養の育成としても構成している。

授業計画	内容
第1回	審美歯科・レーザー歯科治療①
第2回	審美歯科・レーザー歯科治療②
第3回	審美歯科・レーザー歯科治療③
第4回	審美歯科・レーザー歯科治療④
第5回	歯科衛生過程Ⅱ (歯科衛生診断/歯科衛生計画立案~評価)
第6回	I. 2年生科目総復習
第7回	I. 2年生科目総復習
第8回	I. 2年生科目総復習
第9回	I. 2年生科目総復習
第10回	I. 2年生科目総復習
第11回	I. 2年生科目総復習
第12回	I. 2年生科目総復習
第13回	I. 2年生科目総復習
第14回	I. 2年生科目総復習
第15回	I. 2年生科目総復習

履修上の注意

成績評価 レポート提出、また意欲や態度を評価し単位認定をおこなう。 単位認定者：久保田

テキスト

参考図書 オムニバスで行われる授業であるため、その都度配布資料等あり。
その他

科目名 College Hour (総合学習) III

講師 久保田 千尋
外部講師

学年・期 3年生通年, 3単位, 90時間 (講義・演習)

講義目標 歯科衛生士としての総合的な学力を育成することを目的とする。各テーマに添って授業を展開し学習目標の到達を目指す。社会人としての素養の育成としても構成している。

授業計画	内容
第16回	I. 2年生科目総復習
第17回	I. 2年生科目総復習
第18回	I. 2年生科目総復習
第19回	I. 2年生科目総復習
第20回	I. 2年生科目総復習
第21回	I. 2年生科目総復習
第22回	I. 2年生科目総復習
第23回	I. 2年生科目総復習
第24回	I. 2年生科目総復習
第25回	I. 2年生科目総復習
第26回	I. 2年生科目総復習
第27回	I. 2年生科目総復習
第28回	I. 2年生科目総復習
第29回	I. 2年生科目総復習
第30回	I. 2年生科目総復習

履修上の注意

成績評価 レポート提出、また意欲や態度を評価し単位認定をおこなう。 単位認定者：久保田

テキスト

参考図書 その他 オムニバスで行われる授業であるため、その都度配布資料等あり。

科目名 College Hour (総合学習) III

講師 久保田 千尋
外部講師

学年・期 3年生通年, 3単位, 90時間 (講義・演習)

講義目標 歯科衛生士としての総合的な学力を育成することを目的とする。各テーマに添って授業を展開し学習目標の到達を目指す。社会人としての素養の育成としても構成している。

授業計画	内容
第31回	I. 2年生科目総復習
第32回	I. 2年生科目総復習
第33回	I. 2年生科目総復習
第34回	I. 2年生科目総復習
第35回	I. 2年生科目総復習
第36回	I. 2年生科目総復習
第37回	I. 2年生科目総復習
第38回	I. 2年生科目総復習
第39回	I. 2年生科目総復習
第40回	I. 2年生科目総復習
第41回	I. 2年生科目総復習
第42回	I. 2年生科目総復習
第43回	I. 2年生科目総復習
第44回	I. 2年生科目総復習
第45回	I. 2年生科目総復習

履修上の注意

成績評価 レポート提出、また意欲や態度を評価し単位認定をおこなう。 単位認定者：久保田

テキスト

参考図書 オムニバスで行われる授業であるため、その都度配布資料等あり。
その他